



明峰

令和7年11月28日

第 18号

校長 岡野利男

九州中学校駅伝大会の応援について

明日29日(土)に、トランス・コスマススタジアムで行われる大会に女子チームが出場します。そこで、有志生徒諸君による応援団を結成します。希望する人は、9時30分に、メインゲート前の馬の像附近に集合すること。制服着用のこと。※多くの参加を待っています。

「残り3分の1」の地点から

本日で、11月の授業日が終了します。4月からの8か月が終了したということです。

12月から3月まで、残り4か月間=残り3分の1の位置に立ち、先ごろ実施した生徒・保護者・教職員アンケートを基に、春をどう見据え、これから冬をどう過ごすか、3つの項目から整理します。

項目1:分かりやすい授業づくり

- 生徒には、「先生は、私が分からぬところを分かりやすく教えてくれるか。」
- 保護者の皆様には、「教師は子供が分からぬところを分かりやすく教えているか。」
- 本校職員には、「私は、子供が分からぬところを分かりやすく教えているか。」の各質問を。それに対して、4(よくあてはまる)・3(あてはまる)・2(あまりあてはまらない)・1(まったくあてはまらない)の4段階で回答してもらった結果の平均値が次のとおりです。

	生徒	保護者	教職員
本年度	3.1(↑)	3.1(↑)	3.0(↓)
R6	3.2	2.7	3.4
R5	3.3	2.8	3.4

*()は対昨年度

昨年度との比較については、アンケート対象の母集団が違うわけですから、さほど気にする必要はありません。3学期に、再度アンケートを実施しますので、その際には今回との比較を重視します。とは言え、校長としては「教職員の自己評価が下がった」ことに、ある意味安心しています。

中学校教師に求められる“授業者としての最大の使命”は、「教科を学ぶ意義を感じさせること」にほかなりません。分かる・できる生徒に実感させる授業づくりに腐心することの必要性、私は常日頃、本校職員に求めています。「分かりやすい授業づくり」、常により高きを求めなければならない教師の使命の一つです。

そして、子供たちにも求めたい。「分かるまで、本当に分かるまで妥協をしないこと。分かったふりをしないこと」残り3分の1の地点から、“分かりやすい授業”に向けて、再出発したいと思います。



項目2:個に応じた進路について

- 生徒:「私は自分の良さや可能性を感じ取り、将来の進路についてしっかりとを考えているか。」

*この文章の主語を、保護者用においては「子どもは」に、教職員用においては「生徒は」に、それぞれ置き換え。

	生徒	保護者	教職員
本年度	3.1(↑)	2.8(↑)	2.9(↓)
R6	2.9	2.7	3.3
R5	3.0	2.6	3.4

覚えておいで保護者様もおられるかもしれません。2学期のスタート時にこの「自分の良さや可能性を感じ取り…」について、学校だよりに載せたところです。第3学年生徒への課題として提示したところですが…、保護者の皆様や教職員の評価が厳しいところ…。まあ、大人はどうしても「この子は将来のことをどう考えるとやろうか…。」と言いたくなるものですからね…。生徒自身が前向きに捉えてくれることが何より大切です。残り3分の1で、3.1よりも更なる向上を目指したい!!

項目3:家庭との情報共有

- 生徒:「学校は、お便りやメールで、学校の考え方や活動の様子を、家庭や地域に連絡しているか。」
- 保護者:「家庭で、学校からの便りやメール等を見て、学校の考え方や活動の様子を話題にするか。」
- 教職員:「生徒は、学校からのお便りやメールなどを保護者に見せたり伝えたりしているか。」

	生徒	保護者	教職員
本年度	3.3(↑)	2.9(↓)	2.8(↓)
R6	3.2	3.0	3.1
R5	3.2	3.1	2.9

保護者の皆様…、どうか、この学校便りも含めて、学校からの情報を基に、学校生活についてお子様と会話をお願ひします…。

いやいや、保護者の方に責任を求めてはなりません。もっと魅力的な、かつ、保護者の皆様が受信しやすい情報発信の在り方を考えなければならないということ、痛感する結果です。

家庭と学校とが共通の話題を持っておくことは、何かといいことにつながります。残り3分の1の今、共に目指すこととして提案です。